

シラバス集

小山歯科衛生士専門学校

歯科衛生学科 2 年

2024 年度

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④ 年度	学 期	⑥
年 次	⑤ 年次	授業回数	⑦ 回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑩		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。
実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。
※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

④開講年度

⑤年次

授業を受ける学年です。

⑥学期

前期・・・4月～9月
後期・・・10月～3月
通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑦授業回数

⑧授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか
授業方法・・・講義、演習、実習など
課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

平成31年度入学生から、下記のカリキュラムを適用する。

歯科衛生学科 授業科目一覧

区分	教育内容	授業科目名	指定規則の単位数	授業形態	学 則		1年次				2年次				3年次				
					単位数	時間数	前期		後期	時間数	前期		後期	時間数	前期		後期	時間数	
							単位数	時間数			単位数	時間数			単位数	時間数			単位数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	生物学	10	講義	1	15	1	15											
		総合基礎		講義	2	30	2	30											
		統計学		講義	1	15										1	15		
		歯科医療接遇		講義	2	30					2	30							
		情報科学		演習	2	30	1	15	1	15									
		コミュニケーション学		演習	2	30	1	15	1	15									
	基礎分野・小計		10		10	150	5	75	2	30	2	30	0	0	0	0	1	15	
専門基礎分野	人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能	解剖学	4	講義	1	15	1	15											
		生理学		講義	1	15			1	15									
		生化学		講義	1	15			1	15									
		栄養学		講義	1	15					1	15							
	歯・口腔の構造と機能	組織発生学	5	講義	1	15	1	15											
		口腔解剖学Ⅰ		講義	2	30	2	30											
		口腔解剖学Ⅱ		演習	1	15			1	15									
		口腔生理学		講義	1	15			1	15									
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	6	講義	1	15	1	15											
		口腔病理学		講義	1	15									1	15			
		薬理学		講義	2	30	2	30											
		微生物学		講義	2	30			2	30									
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生行政・福祉論	7	講義	2	30										2	30		
		衛生学総論		講義	1	15	1	15											
		口腔衛生学		講義	2	30			2	30									
		公衆衛生学		講義	2	30			2	30									
	専門基礎分野・小計		22		22	330	8	120	10	150	1	15	0	0	3	45	0	0	
専門分野	臨床歯科学	歯科衛生士概論	2	講義	2	30	2	30											
		歯科保存学	8	講義	1	15					1	15							
		歯周療法学		講義	1	15					1	15							
		歯科補綴学		講義	1	15					1	15							
		口腔外科学・麻酔学		講義	1	15					1	15							
		小児歯科学		講義	1	15					1	15							
		歯科放射線学		演習	1	15					1	15							
		歯科矯正学		講義	1	15					1	15							
		障害者・高齢者歯科学		講義	1	15					1	15							
	歯科予防処置論	予防システム論	8	講義	1	15	1	15											
		歯周病予防法Ⅰ		実習	2	60	1	30	1	30									
		歯周病予防法Ⅱ		実習	4	120					2	60	2	60					
		う蝕予防法Ⅰ		講義	1	30	1	30											
		う蝕予防法Ⅱ		実習	1	30					1	30							
	歯科保健指導論	保健指導論Ⅰ	7	実習	4	120	2	60	2	60									
		保健指導論Ⅱ		実習	4	120					2	60	2	60					
	歯科診療補助論	歯科診療補助法Ⅰ	9	実習	2	60	1	30	1	30									
		歯科診療補助法Ⅱ		実習	4	120					2	60	2	60					
		業務管理		講義	1	15							1	15					
		医療安全		演習	2	30									2	30			
	臨地実習(臨床実習を含む。)	実習指導Ⅰ	20	演習	1	30			1	30									
		実習指導Ⅱ		演習	2	45					1	15	1	30					
		実習指導Ⅲ		演習	3	90									2	60	1	30	
		臨地・臨床実習Ⅰ		実習	1	45			1	45									
		臨地・臨床実習Ⅱ		実習	5	225							5	225					
		臨地・臨床実習Ⅲ-Ⅰ		実習	5	225									5	225			
		臨地・臨床実習Ⅲ-Ⅱ		実習	5	225											5	225	
	専門分野・小計		54		58	1755	8	195	6	195	16	345	13	450	9	315	6	255	
選択必修分野	医学基礎	7	講義	1	15										1	15			
	知識の統合		講義	3	90										1	30	2	60	
	総合歯科学		講義	3	90												3	90	
	特別活動Ⅰ		演習	2	45	1	15	1	30										
	特別活動Ⅱ		演習	1	15					1	15								
選択必修分野・小計		7		10	255	1	15	1	30	1	15	0	0	2	45	5	150		
合 計		93		100	2490	22	405	19	405	20	405	13	450	14	405	12	420		

※ 講義及び演習科目は15～30時間、実習科目は30時間、臨地実習及び臨床実習は45時間の授業時間をもって1単位とする。

授業科目名	歯科医療接遇		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	患者は医療の質だけでなく、サービスの質や医療スタッフの態度を含め、満足感を得ます。医療現場でも患者満足という言葉が一般的に使われるようになってきました。常識と、マナーとコミュニケーション能力を兼ね備えた魅力的な医療人を目指すために必要なことを学ぶ科目です。		
授業科目の到達目標	1. 医療従事者としての心構えを持つ 2. インフォームドコンセントを説明できる 3. 敬語を正しく使い分ける 4. 正しいお辞儀、挨拶が出来る 5. 正しい言葉遣いで電話対応が出来る 6. 医療人として相応しい清潔感のあるメイク、身だしなみが出来る 7. 癒しと思いやりの心を持って実践できる 8. 季節に合った環境配備ができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	接遇とは何か 医療接遇と接客との違いと必要性 医療従事者としての心構え	講義、演習 PP	
2	医療の質、医療従事者の質 歯科医療はチームワーク・多職種について	講義、演習 PP	振り返り確認
3	一般マナー、社会人としてのマナー 仕事に臨む基本姿勢、身だしなみと言葉遣い	講義、演習 PP	振り返り確認
4	お辞儀と挨拶 電話対応の基本	講義、演習 PP	振り返り確認
5	手紙の書き方、敬称、季節の挨拶 お礼状・リコールはがき作成	講義、演習 PP	振り返り確認
6	患者さんへの対応 患者説明(直接修復・間接修復・ブリッジ)	講義、演習 PP	振り返り確認
7	患者さんへの対応 患者説明(根管充填・抜歯・義歯)	講義、演習 PP	振り返り確認
8	応接室・面談室 名刺作り、案内の仕方、入退室の仕方、お茶の入れ方	講義、演習 PP	振り返り確認

9	患者さんへの対応の実践 歯科ユニットへの患者さんのご案内方法	講義、演習 PP	振り返り確認
10	患者さんへの対応の実践 歯肉マッサージ実習	講義、演習 PP	振り返り確認
11	マナー講習会	講義、演習 PP	振り返り確認
12	クレームの考え方と対応 患者さんに合った対応の違い 小児、高齢者、妊産婦など	講義、演習 PP	振り返り確認
13	実技試験	実技試験	
14	歯科医院での電話対応、リコールはがき作成		
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	
参考書・資料 等	魅力UPのスタッフ入門 歯科医療接遇 医学情報社 歯科スタッフのマナーと実践マニュアル 口腔保健協会 患者接遇パーフェクトレッスン
この授業科目の前提となる主な科目	実習指導Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	臨地・臨床実習Ⅱ
成績評価の方法	評価時期：定期レポート、実技評価 出席、授業態度、実技試験、筆記試験で総合的に判断します。
その他 受講生への要望等	医療人と必要な心構えと実践的なマナーを身につけます。毎回講義の後に演習を行っていきます。

授業科目名	栄養学		
実務経験講師	○	実務経験	管理栄養士
開講年度	2024 年度	学期	前期
年 次	2年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	私たちの体は、五大栄養素をもとに構成されている。豊かに食料が供給されている中で、その摂取状況の過不足は国民の健康とかわっている。口腔は食物の入り口であり、栄養素と直接関係する疾患が存在する。 歯科衛生士は、口腔の健康を維持・増進する役割を担っていることをふまえ、栄養学を学ぶ。		
授業科目の到達目標	1. 栄養学の必要性について説明できる。 2. 五大栄養素について説明できる。 3. 栄養素の消化吸収および働きについて概説できる。 4. 食事摂取基準について概説できる。 5. ライフステージと栄養について概説できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	栄養の基礎知識。栄養素の働き(糖質・タンパク質)	講義	課題:食事調査、小テスト
2	栄養素の働き(タンパク質・脂質)	講義	小テスト
3	ビタミンとミネラルの働きと役割と必要性	講義	小テスト
4	水と食物繊維・生活習慣病とのかわり	講義	小テスト
5	推定エネルギー必要量・基礎代謝、日本人の食事摂取基準	講義	小テスト
6	食生活と健康との関連、望ましい食生活	講義	小テスト
7	ライフステージ別の栄養と調理 食物と健康の関連、歯の健康	講義	小テスト
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2 栄養と代謝 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版会社
参考書・資料 等	「消化・吸収・代謝と栄養素のすべてがわかるイラスト図鑑」メディカ出版 「歯科衛生士国試対策集 2021 年対応第 1～29 回全重要問題解説集」クインテッセンス出版株式会社
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み、歯科保健指導論
この授業科目から発展する主な科目	講義科目:栄養学→実習科目:歯科保健指導論
成績評価の方法	定期試験(90%)、講義への参加態度(10%) 最終評価は総合評価。
その他 受講生への要望等	きちんとノートをとること。 課題提出のルール:講義開始前に回収できるよう出席番号順に並べて準備すること。 授業のまとめとして国家試験の過去問を小テストで行う。

授業科目名	歯科保存学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	う蝕と歯の神経の病気の治療法の原理と処置を理解し、治療にあたっての歯科衛生士の業務内容がしっかり修得されることを目的としています。そして、その知識が歯科診療補助論、歯科予防処置論、歯科保健指導論を学ぶための基礎となります。		
授業科目の到達目標	1 歯科衛生士事業を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、診断および治療法の基本を習得する 2 保存治療を行うために必要な材料、器具、手技等を習得する		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯の保存療法の種類 口腔検査	講義	教科書を読んてくる
2	保存修復治療の概要	講義	教科書を読んてくる
3	直接修復法の概要	実習	教科書を読んてくる
4	歯内療法の概要	講義	教科書を読んてくる
5	歯髄保存療法、歯髄の除去療法	講義	教科書を読んてくる
6	根管治療、根管充填	講義	教科書を読んてくる
7	外科的歯内療法、歯の外傷、安全対策	講義	
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	歯周療法学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	歯周治療の全体像を学び、治療の流れを理解して歯科衛生士業務の意義を理解し、さらに、歯周治療における歯科衛生士の役割の重要性をしっかりと認識してもらうことで、歯周治療の一翼を担える優れた歯科衛生士となることを目指します。		
授業科目の到達目標	1. 歯周疾患の種類を説明できる 2. 歯周疾患の診断及び治療の基本を習得する 3. 歯周疾患を説明できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	I 編1章 歯周治療とは 2章 歯周組織の構造と機能	講義	教科書をよく読む
2	3章 歯周病の分類と原因	講義	教科書をよく読む
3	II 編1章 歯周治療の進め方 2章 歯周病の検査	講義	教科書をよく読む
4	3章 歯周基本治療	講義	教科書をよく読む
5	4章 歯周外科治療	講義	教科書をよく読む
6	5章 歯周治療としての口腔機能回復治療	講義	教科書をよく読む
7	6章 メインテナンス	講義	教科書をよく読む
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯周病学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	予防システム論、歯周病予防法Ⅰ・Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	業務管理
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	予習復習をしっかりとしましょう。

授業科目名	歯科補綴学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	歯質が崩壊あるいは歯や顎が欠損した場合に、その部分をクラウン、ブリッジ、義歯やインプラントなどの人工装置で補い、機能の回復と見た目の自然観の回復をさせ、口腔機能の維持、改善について知識を習得する		
授業科目の到達目標	1. 歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部欠損に対する咬合修復方法を習得する 2. 補綴治療の種類流れを理解し臨床がスムーズに行えるように材料、器材の取り扱いを習得する		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	I 編. 補綴歯科治療に関する基礎知識 1 章 歯科補綴の概要 2 章 補綴歯科治療の基礎知識	講義	教科書 P4～47
2	II 編. 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 1 章 補綴歯科治療における検査	講義	教科書 P50～69
3	2 章 クラウンブリッジ治療	講義	教科書 P70～109
4	3 章 有床義歯治療の実際	講義	教科書 P110～179
5	3 章 有床義歯治療の実際	講義	教科書 P110～179
6	4 章 インプラント治療 5 章 特殊な口腔内装置を用いる治療	講義	教科書 P180～223
7	6 章 補綴歯科治療における器材の管理 全体の復習、義歯の印象、器材などのデモ	講義	教科書 P224～230
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	口腔解剖Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	歯科放射線学、業務管理
成績評価の方法	定期試験 出席 授業態度など総合的に判断します。

その他

受講生への要望等

授業科目名	口腔外科学・麻酔学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	11 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	22 時間
授業科目の概要	口腔外科は、ほとんどすべての基礎歯科医学、臨床歯科医学に立脚した学問です。したがって、まずこれらの基本的な知識の十分な理解と習得を目指し、その上で口腔外科としての専門知識を学びます。		
授業科目の到達目標	1. 口腔外科の基礎知識を習得する 2. 歯科医師の介助、器具の準備、滅菌消毒ができる 3. 衛生士が主体、主導となって治療を行うことができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	I 編 1 章 口腔外科の概要 ①口腔外科とは ②顎・口腔領域の特徴と主な疾患	講義	教科書をよく読み、わからない語句を書き出してくる。
2	1 章 ③口腔病変と全身疾患 ④基礎疾患と歯科治療	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
3	2 章 顎・口腔領域の先天異常と発育異常 ①歯の発育異常 ②口腔軟組織の先天異常と異常 ③口唇裂・口蓋裂 ④顎の先天異常と発育異常		
4	3 章 顎・口腔領域の損傷および機能障害	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
5	4 章 口腔粘膜の病変 ①水泡形成を主徴とする疾患 ②紅斑およびびらんを主徴とする疾患 ③潰瘍を主徴とする疾患 ④白斑を主徴とする疾患 ⑤色素新着を主徴とする疾患	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
6	4 章 口腔粘膜の病変 ⑥粘膜の萎縮を主徴とする疾患	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出して

	⑦口腔の乾燥を主徴とする疾患 ⑧粘膜の出血および貧血を主徴とする疾患 ⑨そのほかの異常および疾患 5 章 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 5 章 顎・口腔領域化膿性炎症疾患 ①炎症とは ②歯周組織の炎症 ③顎骨の炎症 ④顎骨周囲組織の炎症		くる。
7	6 章 顎・口腔領域の嚢胞性疾患 ①嚢胞とは ②顎骨に発生する嚢胞 ③軟組織に発生する嚢胞	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
8	7 章 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 ①腫瘍とは ②腫瘍の分類 ③歯源性腫瘍と非歯源性腫瘍 ④腫瘍類似疾患	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
9	8 章 唾液腺疾患 ①唾液と唾液腺 ②炎症性唾液腺疾患 ③唾石症 ④唾液分泌異常 ⑤唾液腺腫瘍 9 章 口腔領域の神経疾患 ①顎口腔の知覚神経と運動神経 ②神経痛 ③神経麻痺 ④神経痙攣 10 章 口腔外科診療の実際 ①口腔外科治療の流れ ②診察と診断 ③清潔と不潔 ④創傷の処置 ⑤口腔外科小手術(前半) ⑥止血処置 ⑦縫合処置 1 章 歯科治療における歯科麻酔と患者管理 ①歯科治療における歯科麻酔の立場 ②全身状態の評価と患者管理	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。

10	2 章 局所麻酔 ①局所麻酔法 ②局所麻酔薬 ③血管収縮薬 ④局所麻酔に使用する器材 ⑤局所麻酔時の局所的偶発症 3 章 精神鎮静法 ①吸入鎮静法 ②静脈内鎮静法 ③精神鎮静法実施に際する一般的注意点 講義総括	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
11	定期試験		

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	「病理学・口腔病理学」参照
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	業務管理
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	小児歯科学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	小児歯科は、成長発育をしている小児を対象として口腔領域の正常な発育をはかり、これを障害する異常や、疾患の予防治療を行うことにより正しい永久歯列を実施させることを目的としているため、常に発達成長を続ける小児が対象であること、母親の協力が不可欠であることより、小児歯科学に必要な対応と知識を学ぶ。		
授業科目の到達目標	1. 小児の身体的・精神的発達および総合咀嚼器官の発育とその阻害因子について説明できる 2. 各ステージにおける小児の理解と特徴的歯科疾患を説明できる 3. 歯科衛生士としての役割を習得する		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	総論 1 章 小児歯科とは 小児歯科学概論 2 章 心身の発育 3 章 小児の生理的特徴 4 章 顔面頭蓋の発育 5 章 歯の発育とその異常	講義	教科書を読んでくる
2	6 章 歯列、咬合の発育と異常 7 章 小児の歯科疾患 8 章 小児虐待	講義	教科書を読んでくる
3	各論 1 章 小児期の特徴と歯科的問題点 2 章 小児歯科における患者との対応法	講義	教科書を読んでくる
4	2 章 小児歯科における患者との対応法 3 章 小児歯科における診療体系	講義	教科書を読んでくる
5	3 章 小児歯科における診療体系 4 章 障害児の歯科治療	講義	教科書を読んでくる
6	4 章 障害児の歯科治療 5 章 う蝕予防 1 章 小児の口腔健康管理	講義	教科書を読んでくる
7	6 章 小児の口腔健康管理 7 章 歯科診療室と器材の管理	講義	教科書を読んでくる
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「小児歯科」 全国歯科衛生士教育協議会　医歯薬出版
参考書・資料　等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	歯科放射線学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	10 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	20 時間
授業科目の概要	現在の歯科診療におけるX線検査の役割は大きく、口腔内病変の進展を診断し、治療方針を決定するためには、X線検査はかせません。 X線を理解することで、医療でなぜ放射線を有効に利用されているのかまた、どうしたら安全に利用できるのかを理解し、習得します。		
授業科目の到達目標	1. エックス線写真撮影時の補助に対応するために必要な撮影手順習得する。 2. 放射線防護の方法を習得する。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	第 1 章 放射線の基礎知識 ①歯科におけるX線写真と画像診断 ②放射線とその性質 ③放射線の人体への影響と防護	講義	予習:教科書 P1～P19 読む
2	第 2 章 X線画像の形成 ①X線と画像の形成 ②X線フィルムと増減紙 ③デジタル画像系 第 3 章 歯科におけるエックス線検査 ①口内法X線撮影 第 4 章 口内法X線撮影の実際とDHの役割 ①口内法X線撮影の準備 ②フィルムとヘッドの位置づけ	講義	予習:教科書 P20～P44、 P62～p84 読む
3	口内法X線撮影実習 実習①	実習	
4	①口内法X線撮影相互実習		
5	口内法X線撮影実習 実習② ①口内法X線撮影相互実習 第 3 章 歯科におけるエックス線検査 ②パノラマエックス線撮影 ③頭部X線規格撮影 ④その他の画像検査法 第 5 章 パノラマX線撮影の実際とDHの役割 ①パノラマX線撮影の準備 ②患者の誘導と位置づけ	実習 講義	予習:教科書 P45～61、 P97～P105 読む

6	パノラマX線撮影 実習① ①パノラマX線撮影 相互実習	実習	
7	パノラマX線撮影 実習②	実習	
8	②パノラマX線撮影 相互実習		
9	第 6 章 写真の処理・放射線治療 ①写真の処置と画像保管 第 7 章 放射線治療と口腔管理 第 4 章 口内法X線撮影の実際とDHの役割 ⑤口内法X線撮影のみかた 第 5 章 パノラマX線撮影の実際とDHの役割 ③パノラマX線写真のみかた	講義	予習:教科書 P108～P126、 P85～P96、P106～P107 読む
10	定期試験	筆記試験	筆記試験

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	口腔解剖学
この授業科目から発展する主な科目	歯科保存学・歯周療法学、業務管理
成績評価の方法	定期試験 9 割 出席状況 1 割 授業態度も加味します
その他 受講生への要望等	

授業科目名	歯科矯正学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	頭部・顎・顔面の成長発育とそれに伴って変化する熾烈の変化を知り、その発育を阻害する因子を早期に取り除く事が不正咬合の予防につながることを理解します。さらに、患者に対する矯正治療患者に対する矯正治療の必要性に関する啓発の在り方、不正咬合によってもたらされる障害、矯正装置の口腔衛生に与える影響など、歯科矯正学をわかっていなければ解決できないことが多い。本科目は不正咬合と実際の矯正治療の関連付けができるように基礎的な知識を習得することを目的とするとともに、歯科矯正学の基礎を学び歯科矯正に関する診療補助の方法を学びます。		
授業科目の到達目標	1 不正咬合の治療意義と診断および治療法を習得する 2 歯科矯正治療における衛生士の役割について理解する		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	矯正の概論 矯正歯科学概論 矯正歯科学とは何か？ 矯正治療の歴史と必要性について 成長発育(1) 成長・発育 頭部・顎・顔面および歯・歯列の成長発育について	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。目安時間は 30 分です。
2	正常咬合と不正咬合(Ⅰ) 正常咬合と不正咬合、不正咬合の種類について 正常咬合と不正咬合(Ⅱ) 不正咬合の原因と予防法について	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。
3	矯正歯科診断(Ⅰ) 矯正歯科診療所に必要な検査 矯正歯科診断(Ⅱ,Ⅲ) 症例分析、非抜歯治療と抜歯治療	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。
4	矯正歯科診断(Ⅲ)矯正歯科と力 矯正歯科診療と“力”矯正力・顎・整形力・保定矯正力の種類と歯の移動様式について。 矯正装置 (Ⅱ,Ⅲ) 矯正装置の種類と用途について (可撤式矯正装置と固定式矯正装置) 機能的矯正装置・保定装置	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。

5	矯正治療の実際 上下顎の前後関係の不調和 上下顎の垂直的關係の不調和 成人矯正 口腔顔面の形成異常と変形、歯の埋伏と歯数異常 治療時のトラブルへの対応 保険適用の歯科治療	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。
6	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 矯正診断・矯正診断時の業務 矯正治療に用いられる器具について	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。
7	矯正歯科患者と口腔保健管理、口腔筋機能療法 器材、資料、文章の管理 講義のまとめ・定期試験対策	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。
8	定期試験	筆記試験	前の講義の際に連絡します。

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科衛生 全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版
この授業科目の前提となる主な科目	口腔生理学・口腔病理学・小児歯科学
この授業科目から発展する主な科目	口腔外科学、業務管理
成績評価の方法	定期試験 授業態度20% 試験(筆記)80% で評価を行う。
その他 受講生への要望等	講義後の該当箇所について、教科書による復習を行うこと。

授業科目名	障害者・高齢者歯科学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	全身疾患、摂食嚥下障害、介護を要する高齢者が増加している。 高齢者に対し、他職種との連携の必要性や対応、知識を学ぶ。		
授業科目の到達目標	1. 高齢者の身体的、精神的特徴の理解と衛生士としての歯科治療上必要な対応を説明できる 2. 歯科治療におけるスペシャルニーズ(疾患、行動調整、口腔衛生管理、安全管理、リハビリなど)を説明できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	障害者歯科 1章 障害の概念 2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患	講義	教科書を読んでくる
2	3章 障害者の歯科医療と行動調整 4章 健康支援と口腔衛生管理 5章 リスク評価と安全管理	講義	教科書を読んでくる
3	6章 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士割 7章 地域における障害者歯科 8章 障害者歯科荷をける歯科衛生過程	講義	教科書を読んでくる
4	高齢者歯科 Ⅰ編 高齢者を取り巻く社会と環境 Ⅱ編 加齢による身体的・精神的変化と疾患	講義	教科書を読んでくる
5	Ⅲ編 高齢者の状態把握 Ⅳ編 口腔ケア	講義	教科書を読んでくる
6	Ⅴ編 摂食嚥下リハビリテーション	講義	教科書を読んでくる
7	Ⅵ編 高齢者に関わる医療と介護 Ⅶ編 高齢者歯科における歯科衛生過程	講義	教科書を読んでくる
8	定期テスト	講義 筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学
--------	---

	歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	歯科保健指導
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	歯周病予防法Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2024 年度	学 期	1 年
年 次	2 年次	授業回数	60 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	120 時間
授業科目の概要	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得することを目的とします。 歯周病予防法Ⅰで学んだ知識を踏まえ、相互実習を行うことで技術を身に着けます。		
授業科目の到達目標	1. 歯科衛生過程における各構成要素の目的を理解できる 2. 歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる 3. 歯科衛生介入に関連する検査ができる 4. シックルタイプスケーラー・キュレットタイプスケーラーを操作できる 5. シャーピングができる 6. パワースケーラーを操作できる 7. 歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる 8. 歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる 9. 導入や言葉かけなど患者対応が出来るようになる 10. 歯科衛生計画を立案し処置ができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	マネキン実習	講義	
2	全顎シックルスケーラーによる確認 相互実習について	実習	
3	2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 情報収集の目的	講義	小テスト
4	全身的な健康状態 口腔内の観察項目 歯科衛生介入に関連する検査方法 等		
5	相互実習 口腔内の観察、観察による評価	実習	実習記録
6	歯式をとる		
7	マネキン実習	実習	実習記録
8	全顎 プロービング		
9	相互実習	実習	実習記録
10	プロービング		
11	3章 ②歯科衛生介入としての歯科予防処置 歯面研磨 目的 種類 歯面研磨剤	講義 実習	
12	① 使用器材と操作方法 ② 臨床における注意事項 ③ 注意する症例		
13	相互実習	実習	実習記録
14	下顎前歯部シックルスケーラー		

15	相互実習	実習	実習記録
16	歯面研磨 下顎前歯部		
17	キュレット型スケーラーについて	講義	
18	特徴 操作方法 グレーシーキュレット		
19	マネキン実習	実習	実習記録
20	下顎前歯部での操作 キュレットスケーラー		
21	相互実習	実習	実習記録
22	下顎前歯部での操作 キュレットスケーラー		
23	マネキン実習	実習	実習記録
24	上顎前歯部での操作 キュレットスケーラー		
25	相互実習	実習	実習記録
26	上顎前歯部での操作 キュレットスケーラー		
27	キュレット型スケーラー スケーリング確認 試験対策 まとめ		
28	実技試験		
29			
30	中間試験		
31	パワースケーラー	講義	
32	超音波スケーラーとエアスケーラー器具の準備・取扱い		
33	相互実習 半分に分けて上顎を超音波スケーラー	実習	実習記録
34	下顎をエアスケーラー		
35	相互実習 半分に分けて下顎を超音波スケーラー	実習	実習記録
36	上顎をエアスケーラー (前回と交代)		
37	相互実習 半分に分けて上顎を超音波スケーラー	実習	実習記録
38	下顎をエアスケーラー		
39	相互実習 半分に分けて下顎を超音波スケーラー	実習	実習記録
40	上顎をエアスケーラー (前回と交代)		
41	PMTC、歯面清掃器	講義	
42	エバシシステム基礎実習	実習	
43	相互実習	実習	実習記録
44	PMTC(エバチップ)		
45	相互実習	講義	実習記録
46	歯面清掃器		
47	上顎右側臼歯部キュレットスケーラー 講義 マネキン実習	講義 実習	実習記録
48	下顎右側臼歯部キュレットスケーラー 講義 マネキン実習		
49	相互実習	実習	実習記録
50	上顎右側臼歯部 下顎右側臼歯部		

51	上顎左側臼歯部キュレットスケーラー 講義 マネキン実習	実習	実習記録
52	下顎左側臼歯部キュレットスケーラー 講義 マネキン実習		
53	相互実習	実習	実習記録
54	上顎左側臼歯部キュレットスケーラー 下顎左側臼歯部キュレットスケーラー		
55	実技試験、後期定期試験の説明 国家試験対策 歯周病予防法まとめ	講義	
56	シャープニング	講義	実習記録
57		実習	
58	実技試験	実技試験	
59			
60	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 歯周病学
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	歯周病予防法 I 予防システム論 微生物学 臨地・臨床実習
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	評価時期:実技試験、定期試験 評価対象:筆記・実技試験、出席状況、実習態度
その他 受講生への要望等	危険を伴う相互実習を行う教科になります。マネキンでの手技の確認をしっかりと行ってから実習に臨んでください。体調を整え、実習準備を怠らないようにしましょう。実習の機会は少ないので欠席しないようにしてください。 歯周病学を理解して歯科衛生士の役割をしっかりと身に付けていきましょう。

授業科目名	う蝕予防法Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	う蝕予防処置は歯科衛生士の三大業務の中の一つの歯科予防処置の中であり、重要な業務であります。 う蝕発生や進行のメカニズムを理解し、歯科衛生士として人々の歯、口腔の健康の維持・増進をさせるためにう蝕予防の専門的な知識、技術を学びます。		
授業科目の到達目標	1. フッ化物応用（歯面塗布法・洗口法）を手順と内容を理解し、実践できる 2. フッ化物の急性最小中毒量・フッ素量・フッ化ナトリウム量の算出方法の求め方を理解し計算できる 3. う蝕活動性試験を手順と内容を理解し、実践できる 4. う蝕予防のメンテナンスについて理解する 5. う蝕活動性試験に結果に基づいた予防プログラム作成し計画できる 6. 小窩裂溝填塞法の手順を理解し、実践できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	・一年次の復習 ・う蝕活動性試験 唾液分泌速度測定 Dentobuff®-Strip デントカルトSM ※結果は無くさずに保管しておくこと 12.13 回の授業で使用します	講義 実験室	教科書 実習日誌
2	う蝕活動性試験 デントカルトLB ※結果は無くさずに保管しておくこと 12.13 回の授業で使用します 食事アンケート(う蝕予防プログラム立案のため)	実習 実験室	実習日誌 次回持ち物: マネキン模型
3	・相互実習について ・マネキン実習 フッ化物塗布法、トレー法、歯ブラシゲル法、綿球塗布法 フォームの出し方練習⇒実践でできるように泡を出します ・手順のプリント作成(歯ブラシゲル法、トレー法、歯面塗布法) ・PCR チャート記入法 復習	マネキン実習 実験室	マネキン模型 白衣 実習帽 次回の持ち物: 歯ブラシ
4	フッ化物歯面塗布法の相互実習 教員 2 名(補助 1 名) ・歯ブラシ法(ゲル法) PCR チャート記入	実習 実習室	実習日誌 白衣、実習帽 マスク グローブ

5	フッ化物歯面塗布法の相互実習 教員 2 名(補助 1 名) ・トレイ法(フォーム)	実習 実習室	実習日誌
6	フッ化物歯面塗布法の相互実習 教員 2 名(補助 1 名) ・綿球法(フッ化ナトリウム溶液) 学生一人は持ち時間 15 分で歯面塗布を行う 今回は実技試験となりますので、しっかりと手順を覚えること	実習 実習室	実習日誌 白衣 実習帽 マスク グローブ
7 8	フッ化物歯面塗布法 実技テスト 教員 2 名(補助 1 名) 学生待機:教室 待機中は課題を行う 完全攻略本 P.614～649	実習 実習室 待機は教室	実技試験 実習日誌
9	フッ化物応用 ・洗口法ミラノール 洗口液の実習 (洗口液の作成及び使用方法の説明について) 次回確認テストを行いますので、1 年次の復習をしておいてください	講義 教室 B	確認テスト
10	フッ化物の応用のまとめ ・最小中毒量の算出法の復習 ・フッ素量の求め方 ・フッ化ナトリウム量の求め方 確認テスト(30 分)	講義 実習 実験室	実習日誌 確認テスト
11	小窩裂溝填塞法 模型実習 教員 2 名(補助 1 名) マネキン実習	実習 実験室	実習日誌
12	小窩裂溝填塞法 実技試験 教員 2 名(補助 1 名) マネキンにて実技試験 学生待機:教室 待機中は課題を行う 完全攻略本 P.614～649	実習 実験室	実技試験
13	う蝕予防試験結果による予防プログラム作成 食事アンケートの結果も含める 予習:小窩裂溝填塞の手順 教科書をよく読んでおく	演習 教室 B	予防プログラム 作成 試験待機中の課題 提出
14	う蝕予防法の総復習・まとめ(定期試験に向けて)	講義 教室	教科書 筆記用具
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会
参考書・資料 等	「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法」
この授業科目の前提となる主な科目	予防システム論、口腔衛生学、公衆衛生学、保健指導論、臨床実習指導

この授業科目から発展する主な科目	保健指導論
成績評価の方法	評価時期：定期試験 評価対象及び配分：試験 8 割、授業態度 1 割、小テスト・実技テスト・提出物 1 割
その他 受講生への要望等	配布プリント、小テストのファイリングをきちんと行ってください。 提出物の期限を守り、授業態度を正してください。

授業科目名	保健指導論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2024 年度	学 期	1 年
年 次	2 年次	授業回数	60 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	120 時間
授業科目の概要	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するためにプロフェッショナルケア・セルフケアの基本となる知識、技術および態度を修得します。		
授業科目の到達目標	1. 歯科衛生アセスメントの情報収集と情報処理ができる 2. 医療面接の技術を身に付けることができる 3. 対象者の口腔機能の評価を理解できる 4. 口腔衛生状態を評価することができる 5. 全身疾患のある対象者に応じた保険指導ができる 6. 喫煙者に対する支援のポイントを理解できる 7. 各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる 8. 各ライフステージの特徴にあった保健指導を計画することができる 9. 対象者の状況を多角的に考える事ができる 10. 対象者に応じた口腔清掃法を提案することができる 11. 対象者に応じた介入ができる 12. 歯科衛生評価を行うことができる 13. 特別な配慮が必要な者への対応法がわかる 14. 災害時の歯科保健指導がわかる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	保健指導Ⅰの復習	講義	
2	歯科衛生アセスメント 主観的情報の把握 医療面接 P119~122	講義	
3	医療面接(メディカルインタビュー)① 問診と医療面接の違い 医療面接の目的 P122	講義・演習	【課題】 実習記録
4	医療面接(メディカルインタビュー)② 問診と医療面接の違い 医療面接の目的 P122	講義・演習	【課題】 実習記録
5	全身の健康状態の把握 器質的、機能的問題の把握 服薬状況 P125~126	講義	【課題】 実習記録
6	認知機能の把握 評価スケール P127	講義・演習	【課題】 実習記録
7	生活環境と生活背景の把握 社会構造、虐待への対応 P128~129	講義	【課題】 確認テスト

8	生活習慣の把握 喫煙 飲酒 運動 ストレス P128~131	講義	【課題】 確認テスト
9	口臭の原因と対応 P149	講義	【課題】 確認テスト
10	口臭の原因と対応 P149	講義	【課題】 確認テスト
11	口腔の機能的問題の把握① 観察による評価 P152~153	講義・実習	【課題】 実習記録
12	口腔の機能的問題の把握② 観察による評価 P152~153	実習	【課題】 実習記録
13	口腔の機能的問題の把握③ 観察による評価 P152~153	講義・実習	【課題】 実習記録
14	口腔の機能的問題の把握④ 観察による評価 P152~153	実習	【課題】 実習記録
15	分析の為雄データ① 口腔衛生の指数 う蝕の指数 P156	講義・実習	【課題】 実習記録
16	分析の為雄データ② 口腔衛生の指数 う蝕の指数 P156	実習	【課題】 実習記録
17	口腔機能の評価① 咀嚼機能評価 嚥下機能評価 口腔評価の検査 舌圧の評価 運動機能の評価 P153~155	実習	【課題】 実習記録
18	口腔機能の評価② 咀嚼機能評価 嚥下機能評価 口腔評価の検査 舌圧の評価 運動機能の評価 P153~155	実習	【課題】 実習記録
19	摂食嚥下訓練① 「高齢者歯科学」	実習	【課題】 実習記録
20	摂食嚥下訓練② 「高齢者歯科学」	実習	【課題】 実習記録
21	口腔機能の発達に関する指導① 食べる 話す 呼吸機能発達不全を改善するための指導・管理 P285~287	講義	【課題】 確認テスト
22	口腔機能の発達に関する指導② 食べる 話す 呼吸機能発達不全を改善するための指導・管理 P285~287	講義	【課題】 確認テスト
23	口腔機能の低下に関連する指導① 口腔衛生状態 口腔乾燥 咬合力・咀嚼機能 口唇の筋力・運動機能を改善するための指導 P287~288	講義・実習	【課題】 実習記録

24	口腔機能の低下に関連する指導① 口腔衛生状態 口腔乾燥 咬合力・咀嚼機能 口唇の筋力・運動機能を改善するための指導 P287~288	実習	【課題】 実習記録
25	生活習慣の改善① 非感染性疾患(NCDs) P289~292	実習	【課題】 確認テスト
26	全身疾患の基礎知識 P413	演習	【課題】 確認テスト
27	喫煙者に対する指導① アセスメント 禁煙ステージおアセスメント 禁煙支援のサポート 禁煙支援の取り組み P293~297	講義	【課題】 確認テスト
28	喫煙者に対する指導② アセスメント 禁煙ステージおアセスメント 禁煙支援のサポート 禁煙支援の取り組み P293~297	講義・演習	【課題】 実習記録
29	ストレスマネジメント 認知的評価・対処能力 問題・情動焦点コーピング P299~301	演習	【課題】 確認テスト
30	中間試験	筆記試験	
31	ライフステージに対応した歯科衛生介入 妊産婦期における保健指導① 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 セルフケアの目標 P304~3140	講義	【課題】 確認テスト
32	妊産婦期における保健指導② 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 セルフケアの目標 P304~310	講義	【課題】 確認テスト
33	妊産婦期における保健指導② 妊産婦の栄養 妊産婦期と授乳期の食生活基準、食生活指導 P310~316	講義	【課題】 確認テスト
34	乳児期における保健指導① 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 セルフケアの目標 卒乳 P314~316	講義	【課題】 確認テスト
35	乳児期における保健指導② 離乳期の栄養摂取 離乳に意義 離乳食の進め方 P318~321	講義	【課題】 確認テスト
36	乳児期における保健指導③ 乳児期の食生活指導 P321~324	講義	【課題】 確認テスト
37	幼児期における保健指導① 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標	講義	【課題】 確認テスト

	セルフケアの目標 食生活の特徴と栄養 P324~332		
38	幼児期における保健指導② 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 セルフケアの目標 食生活の特徴と栄養 P324~332	演習	【課題】 確認テスト
39	学齢期における保健指導① 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 セルフケアの目標 食生活の特徴と栄養 食育の重要性 P332~337	講義	【課題】 確認テスト
40	学齢期における保健指導② 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 セルフケアの目標 食生活の特徴と栄養 食育の重要性 P332~337	講義	【課題】 確認テスト
41	青年期における保健指導① 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 セルフケアの目標 食生活の特徴と栄養 青年期の食生活習慣 P339~344	講義	【課題】 確認テスト
42	青年期における保健指導② 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 セルフケアの目標 食生活の特徴と栄養 青年期の食生活習慣 P339~344	講義	【課題】 確認テスト
43	成人期における保健指導① 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 セルフケアの目標 P314~316	講義	【課題】 確認テスト
44	成人期における保健指導② 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 セルフケアの目標 生活習慣病予防と栄養 肥満 糖尿病 脂質異常 高血圧 P339~316	講義	【課題】 確認テスト
45	老年期における保健指導① 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 セルフケア 食生活の特徴 低栄養の原因 栄養摂取基準 食生活指導 摂食嚥下障害と栄養 P334~362	講義	【課題】 確認テスト
46	老年期における保健指導② 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 セルフケア 食生活の特徴 低栄養の原因 栄養摂取基準 食生活指導 摂食嚥下障害と栄養 P334~362	講義	【課題】 確認テスト

47	要介護高齢者における保健指導① 要介護者の一般的特徴および口腔の特徴 要介護高齢者の生活状況 要介護高齢者の口腔ケアの意義・効果 P369~374	講義	【課題】 確認テスト
48	要介護高齢者における保健指導② 要介護高齢者の口腔機能の評価方法 要介護高齢者の食生活 高齢者保健(介護予防サービス)における歯科保健指導 「口腔機能向上」プログラム P369~374	講義	【課題】 確認テスト
49	障害者における保健指導① 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 介護者によるケアの目標 P336~380	講義	【課題】 確認テスト
50	障害者における保健指導② 一般的特徴 口腔の特徴 プロフェッショナルケアの目標 介護者によるケアの目標 P336~380	講義	【課題】 確認テスト
51	大規模災害被災者支援① 避難施設 災害時の歯科保健活動 P380~386	演習	【課題】 確認テスト
52	大規模災害被災者支援② アセスメントと支援活動 災害時の多職種連携 P380~386	講義	【課題】 確認テスト
53	地域保健活動における健康教育① 健康教育の目標 健康教育の進め方 PDCA サイクル P390~329	講義	【課題】 確認テスト
54	地域保健活動における健康教育② 地域歯科保健の進め方 プロセス評価 P392~396 アウトカム評価 アウトプット評価	講義	【課題】 確認テスト
55	地域歯科保健活動のフィールド① 保育所(園)、学校、事業所、保健所・市町村保健センター 地域。病院、施設 P401~411	演習	【課題】 確認テスト
56	地域歯科保健活動のフィールド② 保育所(園)、学校、事業所、保健所・市町村保健センター 地域。病院、施設 P401~411	講義	【課題】 確認テスト
57	周術期の口腔ケア① 「口腔外科学 麻酔学」	講義	【課題】 確認テスト
58	周術期の口腔ケア② 「口腔外科学 麻酔学」	演習	【課題】 確認テスト
59	後期のまとめ	演習	

60	定期試験	筆記試験	
----	------	------	--

使用テキスト	最新歯科衛生教本「歯科予防処置・歯科保健指導論」 最新歯科衛生教本「保健生態学 第3版」
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	保健指導論Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	公衆衛生学 小児歯科学 高齢者・障害者歯科学 口腔外科学・麻酔学
成績評価の方法	定期試験(80点) 課題提出・課題評価(20点) 授業態度、出欠席(減点評価)
その他 受講生への要望等	教科書をよく読み、理解を深めましょう

授業科目名	歯科診療補助法Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2024 年度	学 期	1 年
年 次	2 年次	授業回数	60 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	120 時間
授業科目の概要	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を修得します。		
授業科目の到達目標	1. 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解している 2. 診療前の準備を行うことができる 3. X線写真撮影の準備、補助ができる 4. 口腔内写真撮影の方法がわかる 5. 材料の特徴を理解し、印象採得、石膏模型の作製、仮封材の取扱いができる 6. ラバーダム防湿ができる 7. 各診療時の治療手順が説明できる、 8. 各種治療時の準備ができる。 9. 器具、器材の種類と用途を説明できる 10. 治療前後の患者説明ができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	診療前の準備 ①綿栓、綿球、ガーゼ、ワッテ ②消毒液 ③清拭	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 次回の器具テストの配布
2	器具器材の受け渡し、バキューム操作(P69～77) ・患者誘導・ライティング	講義 実習 実習室	【課題】 ・実習記録
3	X線の準備・片付け(P90～91) ①自動現像機のお手入れ ②自動現像機の取扱い ③デンタルX線フィルムの現像	講義 実習 実習室	・実習記録 器具テスト
4	手用現像X線の準備・片付け(P90～91) エックス線写真の見方	講義 実習 実習室	
5	仮封材の基礎知識(P240～250) テンポラリーストッピング、セメント系仮封材 水硬性仮封、仮封用軟質レジン サンダラックバーニッシュ 模型実習	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
6	印象の復習 印象採得について 印象材の種類、特徴 ① アルジネート印象材 ② シリコーン印象材(パテ+インジェクション) ③ 寒天アルジネート印象採得	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
7 8	石膏の種類、特徴(P214～219) ① 石膏の取扱い ② 石膏の練和方法 石膏注入模型実習(普通石膏、硬石膏、超硬石膏)	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
9 10	バキューム操作、ライティングの基本 ① バキューム ② ライティング ・相互実習	実習 実習室	【課題】 ・実習記録 器具テスト

11 12	ラバーダム防湿の基礎知識(P99~105) ① 器具の名称と用途 ② 模型実習	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録
13 14	歯間分離法、隔壁法に用いる器具の操作 ① セパレーター ② ウェッジ ③ マトリックスバンド 直接修復について ① コンポジットレジン修復 ② グラスアイオノマー修復	講義 実習・演習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト 顎模型
15 16	診査法 直接修復について Black の窩洞 直接修復の治療の手順、使用器材 コンポジットレジン修復、グラスアイオノマーセメント修復	講義 実習・演習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト 顎模型
17	ワックスの基礎知識 ワックスの種類と用途 咬合採得について(補綴 P88,89) ワックス ②シリコーン	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
18	相互実習 片顎 印象採得	講義 実習 実習室	【課題】 ・実習記録
19 20	相互実習 全顎の印象採得、咬合採得 石膏注入	実習 実験室	【課題】 ・実習記録
21 22	石膏のトリミング(P220) 石膏枠づけ模型製作 石膏トラップ片付け 直接修復の復習	実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
23 24	相互実習 印象採得(寒天アルジネート連合印象の体験) 咬合採得	講義 実習 実験室・実習室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
25 26	実技試験 ① ラバーダム防湿(模型) ② 仮封材	実験室 実技試験	【課題】 完全攻略本 (待機中の学生)
27 28	間接修復について 間接修復の手順、使用器材 歯肉圧排	講義 実習・演習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
29	前期振り返り	講義	
30	中間試験 試験前質疑応答 30 分 筆記試験 60 分	筆記試験	
31 32	歯髄炎の分類、診査法 歯髄保存療法と歯髄除去療法	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
33 34	歯髄処置時の診療補助 抜髄・根充の手順、使用器材 器具の受け渡し実技 根充用ピンセット、スプレッター	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
35 36	補綴治療の診療補助 補綴物の種類 歯肉圧排法に用いる器具の操作 クランプ、歯肉圧排糸、外科的排除法	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
37 38	義歯製作の手順、使用器材 義歯修理、リベース 使用器材について	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト

39 40	口腔外科治療・歯周外科治療・インプラントの診療補助 拔牙、難拔牙の手順、使用器材	講義 実習	【課題】 ・実習記録 器具テスト
41 42	外科器具の取扱い 滅菌、消毒 縫合針、注射器の取扱い 歯周パックの取り扱い	講義 実験室 実習	【課題】 ・実習記録 器具テスト
43 44	矯正治療の診療補助 ①バンド合着 ② ダイレクトボンディング ③ バンドの撤去	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
45 46	小児歯科治療の診療補助 対応方法 乳歯冠、クラウンフォームを使用した乳歯冠修復手順、 使用器材 ブリーチング法の診療補助 ① ウォーキングブリーチ ② オフィスブリーチ ③ ホームブリーチ	講義 実習	【課題】 ・実習記録
47 48 49 50	オスキー試験 歯内療法、歯周外科、補綴、口腔外科の診療の流れ 器具の受け渡し	実技試験 実験室	【課題】 ・完全攻略本 (待機中の学生)
51 52	暫間被覆冠の製作 ① 既成冠 ② 直接法	講義・演習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
53 54	口腔内写真撮影について(P92～95) カメラの使い方 口腔内写真撮影のデモ	講義・演習 実習 実験室 実習室	【課題】 ・実習記録 A・B グループに分かれて
55 56	口腔内写真撮影 5 枚法撮影 相互実習	講義 実習 実習室	【課題】 ・実習記録 A・B グループに分かれて
57 58	全身疾患とその対応法	講義	
59	歯科診療補助まとめ・質疑応答	講義	
60	定期試験 ・筆記試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	実習科目: 歯科保健指導論、歯周病予防法、う蝕予防法 講義科目: 歯科衛生士概論
この授業科目から発展する主な科目	実習科目: 歯科保健指導論、歯周病予防法、う蝕予防法 講義科目: 救急蘇生法、臨床検査法
成績評価の方法	筆記試験(40 点)、実技試験(40 点)、小テスト・課題(20 点) 欠席状況、授業態度(減点評価)
その他 受講生への要望等	課題は提出期限を厳守する事(過ぎた場合は減点)。 実習をやむを得ず欠席した場合、申し出があった場合補講を行います。

授業科目名	業務管理		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2024 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	歯科医療受診の流れや保険診療の仕組みを理解し、診療や受付業務をスムーズに進めることができる能力を育成する。		
授業科目の到達目標	1. 歯科診療の基礎知識を把握する 2. 歯科医療受診の流れを理解する 3. 保険の仕組みがわかる 4. 歯科の略語がわかる 5. カルテから治療の流れを読み取ることができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯科医療受診の流れ 保険制度の概要、保険請求の仕組み	講義	課題プリント
2	歯の基礎知識、略語 1 号カルテの読み書き、レセプト記入、略称	講義	課題プリント 小テスト
3	診療の流れとカルテのルール (初期う蝕、歯髄炎の治療の流れ)	講義	課題プリント 小テスト(略語)
4	診療の流れとカルテのルール (抜髄、根管治療、根管充填)	講義	課題プリント 小テスト(略語)
5	診療の流れとカルテのルール (歯周治療の流れ)	講義	課題プリント 小テスト(略語)
6	診療の流れとカルテのルール (補綴物の治療の流れ)	講義	課題プリント 小テスト(略語)
7	振り返り	講義	課題プリント 小テスト(略語)
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	歯周病予防法Ⅰ、歯周病予防法Ⅱ、歯科診療補助法Ⅱ、歯科保存学、歯周療法学、歯科補綴学、口腔外科学・麻酔学、歯科放射線学、小児歯科学、歯科医療接遇
この授業科目から発展する主な科目	衛生行政福祉論

成績評価の方法	定期試験(80点) 小テスト、提出物(10点) 授業態度(10点)
その他 受講生への要望等	受け付けだけではなく、スムーズに診療を進めていくために必要な科目になります。 小テストを行いますのでしっかり勉強をしましょう。

授業科目名	実習指導Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2024 年度	学 期	1 年
年 次	2 年次	授業回数	23 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	臨地・臨床の現場における歯科衛生士の役割を学び、医療人としてふさわしい態度を学びます。スムーズに実習に取り組むことが出来るよう実習目的を理解し、事前学習を行います。		
授業科目の到達目標	1. 臨地・臨床の現場における歯科衛生士の役割を理解できる 2. 医療従事者としてふさわしい対応ができる 3. 歯科診療の流れを理解できる 4. 偶発時の対応を理解できる 5. 乳幼児期、学齢期の心身の特徴を理解できる 6. 乳幼児への歯科衛生指導の内容がわかる 7. 児童への歯科衛生指導の内容がわかる 8. 高齢者への歯科衛生指導の内容がわかる 9. 他職種の職務を理解できる 10. 医療従事者としてふさわしい対応ができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	臨地・臨床実習Ⅱの概要 単位、評価項目、日程の説明・手引きの確認	講義	
2	オスキー確認実習 直接修復、間接修復、抜髄	実習	
3	施設の種類と調べ学習、レクレーション調べ 媒体作り	実習	
4	レクレーション媒体作り	実習	
5	レクレーション媒体作り	実習	
6	レクレーション発表	演習	
7	レクレーション発表、感想・改善点の発表	演習	
8	臨地実習の手引き確認 ・実習日程、目標等の確認 ・日誌、出欠表、評価表の書き方 ・施設実習施設への連絡	講義	
9	施設実習 高齢者施設の種類、認知症、バイタルサイン、口腔ケア、利用者への接し方	実習	

10	施設実習の目的 ①施設で働く他の職種 ②義歯の取り扱い、ブラッシング指導、口腔ケア	講義	
11	施設実習の手引き ① レクレーション リハーサル ② 実習前の抗原検査	実習	
12	施設実習 振り返り	講義	
13	歯科医院実習 実習の手引き確認 ・実習日程、目標等の確認 ・日誌、出欠表、評価表の書き方 ・実習施設への連絡	講義	
14	歯科医院実習 バキューム、ライティング、受け渡し	実習	
14	歯科医院実習 全顎印象、石膏流し	実習	
15	歯科医院実習 石膏トリミング、セメント練和	実習	
16	歯科医院実習 綿栓、綿球作り 滅菌、消毒、医療廃棄物	実習	
17	略称、カルテの読み方	講義	
18	オスキー確認実習 器具の名称、根充、抜歯、義歯装着	実習	
19	臨床実習事前指導 実習の手引き ・医療安全 ・実習生としての心構え臨床実習事前指導 ・オリエンテーション内容、日程等の確認、抗原検査	講義	
20	臨床実習事前指導 媒体作り、発表練習	実習	
21	臨床実習事前指導 媒体作り、発表練習	実習	
22	歯科医院実習振り返り	講義	
23	臨地・臨床実習振り返り	講義	

使用テキスト	実習の手引き
参考書・資料 等	ポケットマニュアル
この授業科目の前提となる主な科目	全ての科目

この授業科目から発展 する主な科目	全ての科目
成績評価の方法	課題、小テスト、授業態度、出欠席、実習日誌
その他 受講生への要望等	臨地・臨床実習を安全に、そしてより学びの深い物とするために欠席のないようにしまし う。

授業科目名	臨地・臨床実習Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2024 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	
単 位 数	5 単位	単位時間数	225 時間
授業科目の概要	学内で学んだ知識・技術・態度をもとに、歯科医療現場で実践実習を行います。 様々な歯科医療現場での歯科衛生士の役割を認識し、責務を自覚した行動がとれる能力を養うための実習です。		
授業科目の到達目標	1. 歯科衛生士の活躍の場を知る 2. 矯正歯科医院での歯科衛生士の役割を知る 3. 訪問歯科での歯科衛生士の役割を知る 4. 乳幼児の発達を理解できる 5. 乳幼児への歯科衛生指導ができる 6. 学齢期の児童への歯科衛生指導ができる 7. 歯科診療所での診療の流れを理解できる 8. 歯科診療所でスムーズな診療のための役割が理解できる 9. 歯科診療時に必要な準備や片付けができる 10. 歯科診療時に必要な器具の受け渡しができる 11. 安全に考慮した対応が出来る 12. 清潔、不潔の理解をし、それに応じた対応が出来る		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯科医院実習（臨床実習）	7 時間×24 日（28 時間） 6 時間×2 日（12 時間）	臨地・臨床実習日誌 実習課題、振り返り
2	矯正歯科医院実習（臨床実習）	6 時間×2 日（12 時間）	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
3	訪問歯科医院実習（臨床実習）	6 時間×2 日（12 時間）	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
4	大谷中学校ブラッシング教室	7 時間×1 日（7 時間）	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
5	城東小学校ブラッシング教室	7 時間×1 日（7 時間）	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り

使用テキスト	新人歯科衛生士・デンタルスタッフ ポケットマニュアル 医歯薬出版株式会社
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	臨地・臨床実習Ⅰ

この授業科目から発展 する主な科目	
成績評価の方法	実習先担当者の評価(50%)、実習日誌・欠席・遅刻(50%)
その他 受講生への要望等	校外実習のため、指導者の指示に従い実習を行うことになります。 学生としての謙虚さと、歯科衛生士としての現場に出るという意識をもって臨んでください。

授業科目名	特別活動Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	行事を通じて職業人としての心構えを育み、協調性を身に着けます。		
授業科目の到達目標	1. 職業人としての常識が理解出来る 2. 式典への出席を通して礼儀作法を身に着ける 3. 歯科衛生士を目指すモチベーションを高める		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	入学式	式典	礼法を身につける
2	IPE	演習	
3	スポーツ大会	演習	
4	フッ素塗布	演出	
5	ホワイトニング実習(印象・石膏)	演習	
6	ホワイトニング実習(マウスピース作り)	演習	
7	決意式	式典	
8	クラス行事	演習	

使用テキスト	
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	実習指導Ⅱ
成績評価の方法	出席、身だしなみ、態度など総合的に判断します。
その他 受講生への要望等	